

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年11月25日 (2010.11.25)

【公開番号】特開2009-96865(P2009-96865A)

【公開日】平成21年5月7日 (2009.5.7)

【年通号数】公開・登録公報2009-018

【出願番号】特願2007-269034(P2007-269034)

【国際特許分類】

C 0 8 G 59/20 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

C 0 8 G 59/62 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/20

C 0 8 K 3/00

C 0 8 L 63/00 C

C 0 8 L 83/04

C 0 8 G 59/62

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月13日 (2010.10.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

本組成物には、作業性を向上させるために、溶剤を配合できる。このような溶剤としては、キシレン、メチルイソブチルケトン、ジアセトンアルコール、n-ブチルアセテート、プロピレングリコールモノメチルエーテルが挙げられる。より好ましくは、2-エトキシエチルアセテート、2-ブトキシエチルアセテート、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノブチルエーテルアセテート (= 酢酸カルピトール、カルピトールアセテート)、ジエチレングリコールエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールブチルエーテルアセテートが例示される。このような溶剤の含有量は限定されないが、本組成物の作業性が改善されることから、(A)成分と(B)成分の合計量 100 質量部に対して 100 質量部以下であることが好ましい。